

平成25年度「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」に参加

文部科学省による「平成25年度 地域とともにある学校づくり推進フォーラム」（静岡会場）が開催されました。今年度、第1回の「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」です。今後は、京都、松山、大分、宇都宮、富山、青森、東京の順に開催されます。

今回は開成町教育委員会と開成町立開成南小学校が実践発表を行いました。以下は、プログラムと教育委員会、開成南小学校が発表した実践の概要です。

プログラム

- 1 期 日 平成25年6月27日（木）
- 2 会 場 しずぎんホールユーフォニア
- 3 日 程

- ① あいさつ 静岡県教育委員会
文部科学省
- ② パネルディスカッション「地域とともにある学校づくり」
- ③ 実践発表

- ・事例Ⅰ 神奈川県開成町教育委員会
開成町立開成南小学校 校長 井上 義文
開成町教育委員会教育総務課 教育指導専門員 小高 達夫
- ・事例Ⅱ 愛知県一市教育委員会
- ・事例Ⅲ 静岡県富士宮市教育委員会

平成25年度
地域とともにある学校づくり推進フォーラム
（静岡会場）

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

開成町教育委員会の発表では、教育委員会と開成南小学校が町の事例と開成南小学校の事例を発表しました。

開成町教育委員会の発表内容（概要）

- ・地図により開成町の説明
- ・町の由来（開物成務）
- ・町の特徴（人口の増加について）
- ・町の特徴（自治活動が活発）
- ・町立学校の3校すべてがコミュニティ・スクールに指定
- ・学校運営協議会合同会議について
- ・各学校の学校運営協議会（組織構成・委員構成）
- ・コミュニティ・スクール導入の成果・課題
- ・開成町のコミュニティ・スクールがめざすもの



開成南小学校の発表内容（概要）

- ・開成南小学校の紹介
学校の位置 児童数 PTA活動
- ・学区の様子
自治会について 学区の住宅環境 児童を見守る地域
- ・学校運営協議会
学校運営協議会制度の設定のため、「開成南小学校コミュニティ・スクール推進委員会」

平成22年度、平成23年度の2年間研究を行う。

- 開成南小学校学校運営協議会について
組織構成 委員構成
- 実践例 成果と課題

開成南小学校の紹介②



- 平成22年4月5日開校
児童数505名 18学級
- ・平成25年5月1日現在
児童数578名 20学級
- 目指すは、『日本一すてきな学校』と言ってもらえる学校をつくらう。』
- 多くの期待を背に、多くの協力を力に、『すてきな』な人の育成

開成町の場合は、町民の皆様によって学校のために支援を行うということが昔から行われてきています。「おらが学校」という気持ちで学校を見守ってくださっています。

開成町立学校3校がすべて学校運営協議会制度を採り入れ、コミュニティ・スクールに指定されているため、今まで学校のために支援をしてくださっている方々に、

成果と課題



【成果】

- 1 各自治会からの推薦の各委員さんのおかげで、各地域への風通しが更によくなった。
- 2 広い視点で本校の教育や、児童をみる事ができた。
- 3 安心、安全、意欲的に学習活動が行えた。

さらにご支援をお願いすると同時に、コミュニティ・スクールの趣旨を理解していただくための啓発活動を進めさせていただかなくてはならないと思いました。

コミュニティ・スクールの考え方としては、地域の皆様、家庭の保護者の皆様に、『学校のためにはいつでもお手伝いに行く。そして、学校が子どもたちのためにさらによい学校経営していくために応援する。』『また、学校が地域の拠点となって、地域の人々の核になってほしい。』『子どもたちを地域・家庭・学校が連携して見守り、社会に出る準備、開成町民として育てていこう。』というお考えを持っていただき、そのことで、町がさらに活発化していくことが大きなねらいとして考えられます。

まとめ



- 地域・家庭のバックアップあつての学校教育であるとの思いを強くしている。
- ・教職員や児童が、さらに地域の環境や人、物に開き深めていきたい。
- ・家庭、地域、学校の教育力の連携を深めたい。

開成町のコミュニティ・スクールがめざすもの

- 子どもたちの“社会性”を育む
 - ・学校、地域で子どもたちが多様な人々と関わりをもつことで、子どもの社会性を育む
 - ・地域の人々に支えられて学んでいくことで、地域への愛着がわく
- 学校・保護者・地域の連携
 - ・学校教育や子どもの成長に責任を持つ大人が増える
 - ・様々な関係者とのかかわりを通じて大人もともに学び合える
- 学校を地域コミュニティの核として
 - ・学校への関わりを通じて、地域の人々同士がつながり、保護者が地域活動に参画することで、学校卒業後も地域に関わる機会を生む
 - ・いつでもどこでも子どもたちに目が向けられることで子どもたちが安心して学べる環境をつくる

コミュニティ・スクールの成果について調査研究報告書

コミュニティ・スクールに指定されている学校の校長先生がアンケートに答えたものが集計されました。（平成23年度日本大学文理学部が文科省の委託調査によって研究報告）

コミュニティ・スクールの成果に関する校長の認識

学校と地域が情報を共有するようになった	96.6%
地域が学校に協力的になった	87.7%
地域と連携した取組が組織的に行えるようになった	84.0%
特色ある学校づくりが進んだ	83.0%
学校に対する保護者や地域の理解が深まった	82.6%
教職員の意識改革が進んだ	77.4%
保護者が学校に協力的になった	63.8%
地域が活性化した	51.4%
児童生徒の学習意欲が高まった	50.5%
保護者や地域からの苦情が減った	46.5%
いじめ・不登校・暴力など生徒指導の課題が解決した	42.7%
児童生徒の学力が向上した	36.2%

コミュニティ・スクールとして活動が長い学校のほうが、成果認識が高い傾向にあるそうです。